

た。会津藩のころからの、季昌すえまさのすぐれた才能は人々の認めるところであり、帰つてくるとすぐ、役所つとに勤めることになりました。しかし、その仕事は、氣に合わない仕事であつたので、半年あまりでやめてしまいました。

こうして、一家は斗南となんを去り、東京へ移住いじゆうすることになりましたが、苦しい生活はまだまだ続きました。

ゆたかな暮らし

東京へ出て来てからも、まず収入しゅうにゅうの方法を考えねばなりません。江戸えどから東京と名を変えた新しい都みやこには、全国からいろいろな人々が移り住んできました。それらの人々を相手に、リンは裁縫さいほうの内職ないしやくをし、夫の季昌すえまさは今まで学んだ漢学かんがくを教えて、わずかばかりの収入しゅうにゅうを得るようになりました。